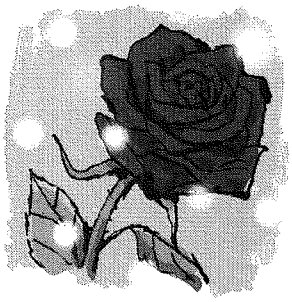
今週の倫理

2024. 5. 18〜5. 24

5月のテーマ ｜ 心の切り替え

1386号

倫理指導によって救われた心



自身の言動や失態が原因で問題が生じてしまった経験は、誰にでもあるでしょう。〈あの時あんなことを言わなければ…〉〈なぜ、あんな行動をとってしまったのか…〉。振り返ると、それぞれに様々な情景が思い出されるものです。

「後悔先に立たず」「覆水盆に返らず」といった諺にもあるように、悔やんでも取り返しがつかず、挽回が難しいケースがあります。しかし心の転換によって難局を切り抜けた方も存在します。経営者のS社長もその一人です。

＊

S社長の長男が中学二年生、次男が小学五年生の時でした。二人が兄弟げんかを始め、体の大きな長男が次男の腹部を踏みつけたのです。

その光景を目撃したS社長は〈肋骨でも折れたらどうするんだ〉と烈火のごとく怒り、「外に出て頭でも冷やせ」と長男を二階から一階に引きずり下ろそうとしました。力任せに腕を引っ張った結果、長男は頭から階段を転げ落ちてしまったのです。

その出来事があった翌日から長男は学校を休みがちになり、不登校に陥ってしまいました。そして、高校も進学できず引きこもり状態になってしまったのです。〈自分が八十、九十歳になっても一生、子供は部屋から出て来ないのではないか〉〈なぜ、あの時あんなことをしてしまったのか〉と後悔の念に駆られる毎日でした。

しかし、そんな中でも夫婦愛和の実践と親祖先を敬う実践は行なっていました。

長男が引きこもってから四年の歳月が経過したある日、意を決して長男のことで倫理指導を受けたのです。これまで経営上のことで指導を受けたことはありましたが、家庭内のことは恥ずかしさもあって受けることをためらっていました。

Sさんは指導者の法人アドバイザーから「自分のことを、そんなに責めないでください。あなたも躾と思って、長男さんの将来のことを考えて行なったのでしょ」と言われました。自身を責め続けていたS社長にとって、その言葉は救いであり、涙が止めどなく溢れて、心が解放されるのを感じました。

帰宅すると、トイレとお風呂以外は部屋に引きこもっていた長男が部屋から出てきました。そして「語学の勉強をしたいんだ」と言ってきたのです。

その後、長男は大検の資格をとり、猛勉強の末、某有名私立大学に入学することができました。現在は大学院に進み、今年、海外留学をする予定です。

身辺をめぐる家庭の事情、事業をとりまく社会の出来事、皆ことごとく、我が心を変えることによって好転する。

（丸山敏雄著『人類の朝光』「岐路」）

S社長は自分を責め続け、過去の出来事に囚われていましたが、指導により心が解きほぐされ、それと呼応するように長男が引きこもりから脱却できたのです。心と意識の持ち方の重要性を教えられる体験です。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局